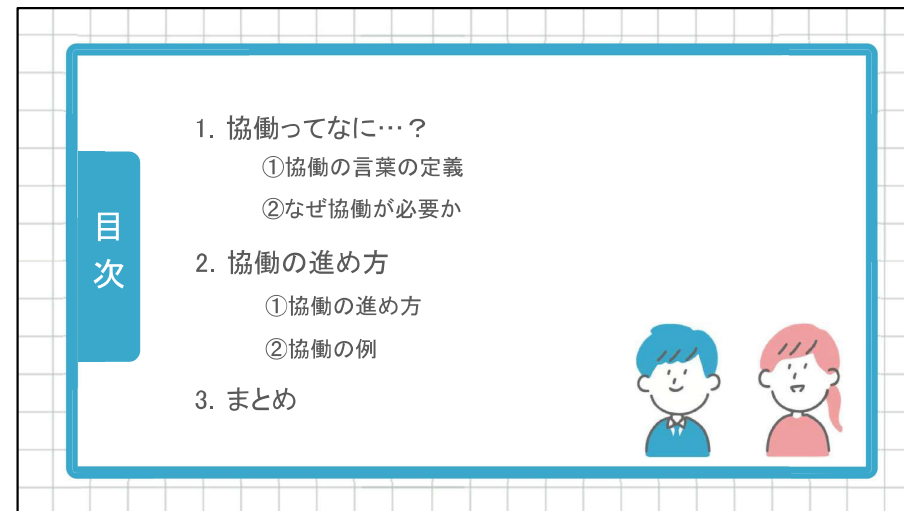




こんにちは。

今回は、那珂川市の総務課 協働のまち推進担当から、「協働について知ろう」というテーマのもと、協働とはなにか、その進め方についてご説明いたします。
それではよろしくお願いします。



今回の内容は、大きく3つに分かれています。

まず1つ目は、「協働ってなに？」

2つ目は、「協働の進め方」

3つ目に、「まとめ」となっています。

まず、「協働って何？」ということについて、協働の言葉の意味、なぜ協働が必要かについて説明いたします。

次に、実際にどのように協働を進めていくのか、例をあげながら説明し、最後にまとめという流れになっております。

それでは、まず「協働って何？」ということについて、説明させていただきます。



さっそくですが、皆さんは協働という言葉聞いてどのようなイメージを持ちますか？

また、具体的に何をすることをイメージできますか？

行政と住民で何かを一緒にすることではないかとイメージされた方が多いのではないのでしょうか。

例えば、花いっぱい運動のような植樹活動や、地域の清掃活動のようなイメージだと思います。

もしくは、正直よくわからない・・・と思った人も多いと思います。

1

協働
って
何...
？

①協働という言葉の意味

市民(団体)と行政が、**対等な関係**で**お互いの立場**や**役割**を理解した上で、**目的を共有**し連携・協力してまちづくりを進めること。

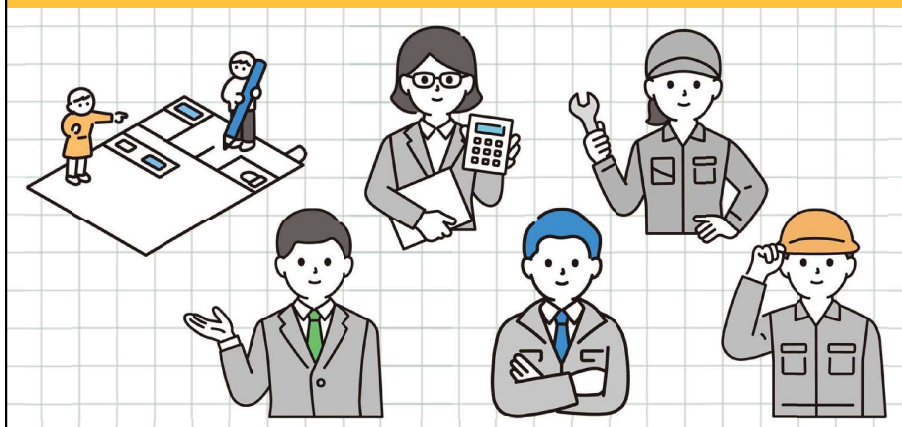
※那珂川市で決めている言葉の意味

那珂川市では「協働」という言葉の意味を次のように決めています。

市民や団体と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること、です。

言葉だけでは難しいので、協働という言葉のイメージを持っていただくために家づくりに例えて説明します。

家づくりで例えると…



新築で家を建てる時をイメージしてください。

まず、家を建てる時に「どこに建てるか」を考えるとします。
実は、家はどこでも建てられるものではなく、国や県、市では、無秩序な乱開発の防止や農地保護を目的としてある程度家を建てて良いエリアと自然を守るエリアを分けて管理をしています。

また、新たに家が建った時に安全安心で快適な生活が送れるよう、渋滞解消のための道路の幅を広げたり、歩道の整備、街灯の設置、バス等の交通網の整備、災害対応等を日頃から行っています。

そして、実際に家を建てる場所を決めた後には、その場所や広さを不動産会社や宅建士の方へ相談し、イメージを作っていくことになります。
この時に、場合によっては建築許可申請等で行政に関わることもあると思います。

そして次に、具体的にどのような家を建てるかということを決めていく際には建築士が設計に携わることになります。
その後、建築を開始すると現場では基礎工事をする人、柱を組み立てる人、塗装をする人、電気工事をする人など、それぞれの役割に応じて多くの方が対等な立場で協力して1つの家を建てていきます。
また、必要な時期に検査をする人もいますし、家が建った後は固定資産税の評価をす

るために、行政の職員が家を訪問し家屋調査を行ったりしています。

このように家を建てるためにはたくさんの作業がある中で、実施する作業によって必要な資格も異なるので、一人で家を建てることはできません。
そこで、役割分担が必要になるということです。

行政も含め、様々な職種の方が資格を持った専門分野の作業を行うことで、安全で安心な家を建てることができます。

また、目的を共有しておくことも重要です。
どんな雰囲気の家にしたいかによって、すべての作業で使用する道具も方法も全然違うと思います。
木造の温かい雰囲気の家にしたいのに、その目的が伝わっておらず、コンクリート調の無機質な家を建てる時に使う資材や方法で作業をすると木造の温かい雰囲気の家は出来ないと思います。

どんな目的で、どのような家を建てたいか、そういったことを共有したうえで作業を開始することが大事になります。

ここが一番のポイントなので、先ほど説明した「協働」の意味について改めて復習します。

1

協働って何…？

①協働という言葉の意味（再掲）

市民(団体)と行政が、**対等な関係**で**お互いの立場や役割**を理解した上で、**目的を共有**し連携・協力してまちづくりを進めること。

※那珂川市で決めている言葉の意味

協働とは、市民(団体)と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること。であり、

家づくりに置き換えると、様々な職種の人が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、依頼者の希望に沿った家を建てるという目的を共有し、連携・協力して家を完成させること。と説明できるかと思います。

皆さん、協働の言葉の意味について、少し理解が深まりましたか？

ここまで、協働という言葉の意味やそのイメージを説明しましたが、なぜ協働という言葉がこれだけ言われるようになったのでしょうか。

1

協働って何…？

②なぜ協働が必要か

地域の課題が多様化・深刻化していること

少子高齢化、人口減少、格差・貧困社会、自然災害など、20年～30年前にはなかった地域の課題が増えている。

地域コミュニティが多重化していること

平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併により、同じ市内でも地域の特性が大きく異なることとなり、課題が複雑化した。

それには、大きく分けて2つの理由があります。

一つ目は、地域の課題が多様化・深刻化してきていること、
二つ目は、地域コミュニティが多重化していることです。

高齢化・人口急減を筆頭に、近年頻発している自然災害、高齢化・車社会等に起因する地域の安全対策など課題は多様化し、それは年々深刻化しています。

また、平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併(いわゆる平成の大合併)は、市区町村の大規模化をもたらし、1つの市内の中でも地域の特性が大きく異なることとなりました。例えるならば、1つの市に山、海、都市部の全てがあるというようなイメージです。このような状態になると、地域の課題は多岐に渡り、複雑化します。

1

協働
って
何...?

②なぜ協働が必要か

地域の課題が多様化・深刻化していること
少子化による人口減少
高齢化による社会福祉の課題

合併前

行政だけでは 解決できない...

地域特性
 平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併により、同じ市内でも地域の特性が大きく異なることとなり、課題が複雑化した。

このように、地域の課題が多様化・複雑化してきたことで、行政と地域住民のそれぞれが単独で解決しようとするのではなく、協力して解決しなければ、もはや解決が難しい状況となってきました。

このような地域だけ、行政だけで解決できない課題を解決するために、「協働」が必要となります。

次は、具体的に協働って何をしたらいいのということで、進め方について説明します。

2

協働の
進め方

①協働の進め方

地域課題の明確化

大切にしたいものや守りたいものを明確にする

話し合い（協議）

大切にしたいものをどうしていきたいか、どうするかを市と市民の皆さんで話し合い、共有する

事業・活動の実施

話し合ったことを実際に行動におこす

評価（振り返り）

おこした行動について、振り返りをして、次回に向けて課題を見つける

協働は、この図の左から順に進めていきます。

一つ目は、地域課題の明確化です。
大切にしたいもの、守りたいものを明確にと言い換えることもできます。
ここが曖昧になってしまうと、そのあとの手順も曖昧になってしまうので、明確にすることが大切になります。
また、市がメインで課題を挙げるのではなく、地域の皆さんから課題を出すことが重要になります。

二つ目は、話し合いです。
地域の課題や大切にしたいもの、守りたいものをどうしたいか、どうしていきたいかを市と住民の皆さんで話し合うこと。
そこから初めて協働する事業が見えてきます。

その後、三つ目の話し合った事業や活動の実施、最後に評価として、実施したことについて振り返り、次回に向けて課題を見つけます。

このサイクルで協働を続けていくことで、住民主体のよりよいまちをつくることに繋がります。

2 協働の進め方

②協働の例 ～なかがわ市民の祭り～

目的

那珂川市で育つ子どもたちのふるさとの思い出をつくること、故郷への誇り、愛着を持ってもらうこと。
那珂川市民を市民の手で元気づけること。





それでは、協働の例として「なかがわ市民の祭り」を紹介します。

なかがわ市民の祭りは、以前まで「祭りなかがわ」として市民から親しまれていた那珂川市の祭りで、令和6年に5年ぶりに「なかがわ市民のまつり」として開催されました。この祭りの開催の目的は、那珂川市で育つ子どもたちの思い出をつくること、故郷への誇りや愛着を持ってもらうこと。そして、なかがわ市民を市民の手で元気づけることです。

令和6年度で48回目となった祭りですが、この祭りは、市民の様々な立場の方々が「なかがわ市民の祭り実行委員会」を結成し、市民の皆さんと市が協働で開催しています。

主催は、「なかがわ市民の祭り実行委員会」で、祭りの企画・運営を行っています。そして、那珂川市は資金や備品、人員などの支援を行っています。このように、祭りは市民と行政が協働で開催しており、どちらが欠けても開催することはできません。

では、この例を先ほど説明した協働の進め方に当てはめてみましょう。【クリック】

2 協働の進め方

②協働の例 ～なかがわ市民の祭り～

地域課題の明確化

祭りが市内の子どもたちをはじめとする市民にとって、大切なものであることを明確化する

話し合い（協議）

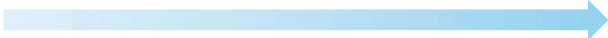
祭りの開催に向けて、それぞれの役割などを話し合う

事業・活動の実施

祭りを開催する

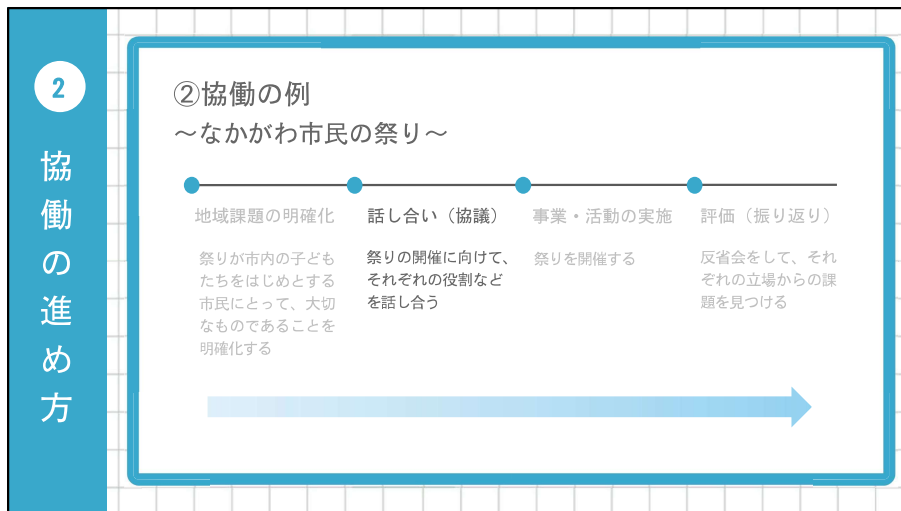
評価（振り返り）

反省会をして、それぞれの立場からの課題を見つける

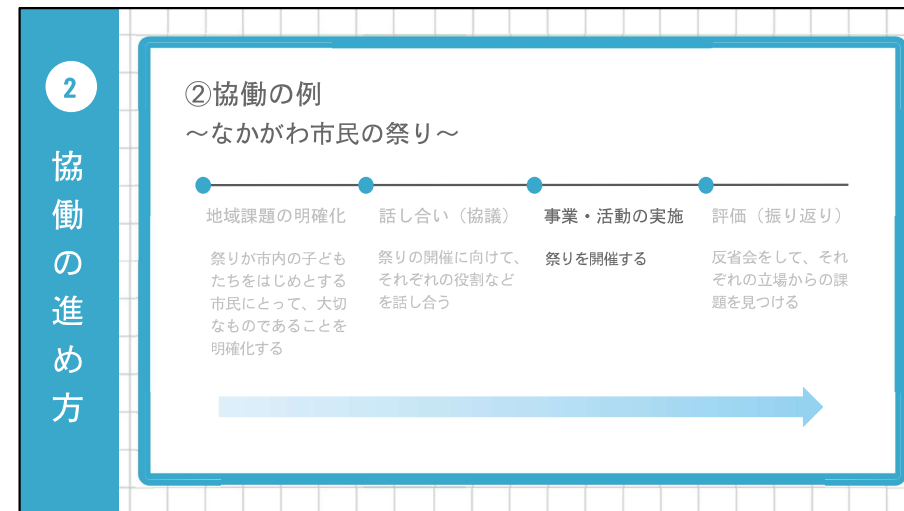


まず、地域課題の明確化です。

コロナ禍で祭りが開催できていなかった4年間は、市内の子どもたちの思い出に残る、また、市民を元気づけるイベントがありませんでした。しかし、その間も祭りの開催を切望する声は多かったことから、市民の有志が立ち上がり、市内の子どもたちが那珂川市に誇りや愛着を持つための、思い出に残る祭りが必要であると、祭りを大切にしたいものと明確にしました。



その後、なかがわ市民の祭り実行委員会が結成され、どのようにして開催するか、資金や人員の確保はどうするかなど、市と実行委員会で何度も話し合いを重ね、お互いができることを担う形で役割分担をしました。



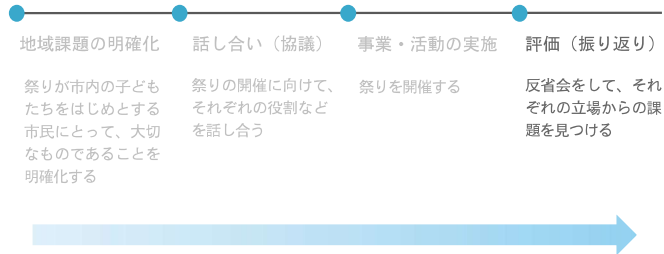
そして、実際に令和6年8月24日に第48回なかがわ市民の祭りが開催され、会場は市内外からの多くの来場者でにぎわいました。

2

協働の進め方

②協働の例

～なかがわ市民の祭り～



最後に、実行委員会の反省会を実施し、それぞれの立場や役割の視点で反省点が挙げられました。
この反省会が出た課題を次回の祭りの開催に向けて、明確化、改善し、また祭りを開催するという流れになります。

ここまでの流れのポイントは、課題解決の方法として、行政から何かを依頼したり、お願いするような方法ではなく、
行政は事業の実施に対して支援が必要な場合にサポートを行うことで、
市民の皆さんが自主的に行動しやすいような仕組みを採用しているということです。

この形が協働ということになります。

3

まとめ

協働とは、市民(団体)と行政が、**対等な関係**で、**目的を共有**し協力してまちづくりを進めること

協働は、**行政だけ、地域だけで解決できない課題**を解決するために必要なこと

協働には市民の皆さんの**積極的・自主的**な参加が必要であること

それでは、今回の動画のまとめです。

まず、「協働」という言葉の意味について説明してきました。
那珂川市では、「協働」とは市民・団体と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、
目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること、と説明をしています。

家づくりに置き換えると、様々な職種の人が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、
依頼者の希望に沿った家を建てるという目的を共有し、連携・協力して家を完成させること。と説明できるかと思います。

そして、協働は少子高齢化や人口急減をはじめとした多様化・複雑化する行政だけで解決できない地域課題の解決のために必要不可欠なことです。

そのためには、行政主導ではなく、市民の皆さんの積極的な参画が必要です。
市民の皆さんが自主的・積極的に参画することで根本的な課題の解決につながります。
行政は皆さんの意見を最大限に尊重し、一緒に支援していきますので、暮らしやすいまちづくりを目指していきましょう。

問い合わせ先

那珂川市 総務課 協働のまち推進担当

Tel 092-953-2211

Mail soumu@city-nakagawa.fukuoka.jp



Q



A



今回の内容や協働に関することなど、ご質問があれば記載しております問い合わせ先までお問い合わせください。

ご視聴ありがとうございました。